

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	向小金雨水幹線整備事業			会計	款	項	目	大事	小事
政策	O1	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	下水道建設課					
施策	1-6	安全性と快適性を兼ね備えた河川・排水路整備	主管課長	浅川 晃					

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	向小金2、3丁目の市民	意図	・向小金雨水幹線を延伸し、向小金2、3丁目の浸水被害を防ぐ。
事業内容	向小金雨水幹線整備事業のうち、雨水管整備が完了した市道部の舗装復旧及び沿線住民への家屋補償を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年5月に下水道事業認可取得。平成24、25年度水道管移送工事をJR東日本に施行委託。 平成26、27年度に市道部雨水幹線工事を実施。 平成28年度にJR常磐線軌道下横断工事をJR東日本に施行委託。（平成29年度に繰越） 平成29年度に軌道下の横断工事が完了し、既設雨水幹線との合流人孔の躯体が完成。 平成30年度に雨水管整備が完了した市道部の舗装復旧を実施。 			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	向小金雨水幹線整備率	57	57	57	%	→→	整備済延長÷全体整備延長(358m)
②	設計業務委託成果	0	0	0	業務	→→	実績値6(全6業務)	
③								
④								
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ・平成28年度からの繰越事業として、JR常磐線軌道下横断工事が平成29年度に完了した。 ・平成29年度に既設雨水幹線との現場打ち合流人孔の築造工事を実施した。 ・平成30年度に雨水管整備が完了した市道部の舗装本復旧を実施した。	
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		36,282,560	341,207,030	24,377,600				
事業費(b)(円)		29,417,560	334,495,030	21,081,600				
うち一般財源		18,167,560	175,995,030	18,781,600				
職員給与と費(c)(円)		6,865,000	6,712,000	3,296,000				
人役・職員(人)		1.00	1.00	0.50				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	舗装復旧及び補償交渉となることから、地元住民と緊密に協議する。	③取組における課題(Check)	担当者が毎年のように変わるため、地元住民との信頼関係を築くのが困難。
②H30に実施した取組(Do)	地元住民に対して事業内容について周知した。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	交通量の多い県道部における連続的な開削工事になることから、沿線住民に施工方法、施工時期について周知する。